

「あばら」という言葉を辞書で引くと「疎なる骨の意味。肋骨」という解説がなされています。この意味での「あばら」の変形を生まれつき持っている人は比較的多く、200人ないし300人に1人が胸のかたちについての悩みを持っていると考えられています。胸のかたちが凹んでいる変形は漏斗胸、



香川大医学部形成外科・美容外科

ながさお 永竿 智久 准教授

の手術においては胸の正中に大きな切開を加えたのちに、肋骨や胸骨をいったん分解し、それを再び組み立てる方式がとられていました。しかし最小限の皮膚切開で、変形の強い部分に対してのみ手術操作を行う技術の開発が急速に進んだため、現在においては以前とは比較にならないほどの入院期間および身体的負担で、「あばら」の形の修正を行うことができなくなっています。

# 「あばら」の変形を治すには

とはいえ、同じく「あばら」の変形とは言っても、患者さんに応じて変形のパターンが千差万別にわたります。良い結果を出すためには、こうした差異を考慮した上で治療を行わなくてはなりません。

香川大病院形成外科においては、工学技術を応用した手術シミュレーションの技術を開発し、個々の患者についてオーダーメイドの治療計画を立てた上で、最良の結果を出すプロジェクトに取り組んでいます。またその取り組みをホームページにおいて公開し、全国の患者さんに向けて情報を発信しています。「あばら」の形にお悩みの方は、ぜひご相談ください。

逆に一部が突出している変形は鳩胸と呼ばれています。

こうした「あばら」の形の悩みを持っていても、その悩みについての解決を求めずに、悩み続けておられる患者さんはたくさんおいでになります。多くの患者さんは思春期もしくは青年期にあり、形についての悩みを吐露することが恥ずかしい年頃であることも一因ですが、「いったい誰に相談したらよいのか分からない」というのも大きな原因となっているようです。

胸のかたちを治す治療は、長足の進歩を遂げています。過去